

しあわせの村の将来像実現に向けた新たな取り組みの考え方

しあわせの村の将来像 (=これからの30年を見据えた、しあわせの村が目指すべき姿)

「しあわせの村」で次々に福祉の試みが起こり、新たな福祉課題を解決することによって、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の実現に貢献するとともに、市民の暮らしに寄与する。

社会課題

人口減少・少子高齢化の進行、福祉課題の複合化・複雑化、社会保障費の増大
地域包括ケアシステムの構築、**地域住民が支えあう地域共生社会の実現**
バリアフリー、ユニバーサルデザインの社会への浸透

神戸市の都市課題

独居高齢者の増加、空家の増加によるコミュニティの衰退、地域社会の担い手不足
独自財源減少からの事業削減

神戸の魅力向上
くらしの質の向上



あらゆる人が、あらゆる形で働ける仕組みづくり

参照: 参考資料2

課題解決のため、しあわせの村や周辺エリアをフィールドに、
民間活力を活用し、実践的・モデル的なコミュニティ再生に取り組む必要

神戸のリソース（資源）を開発・集積することでイノベーションの起点に
↑ 情報・財源・技術・空間・人 など

人・しごと(※)



都市空間・くらし

を核に検討